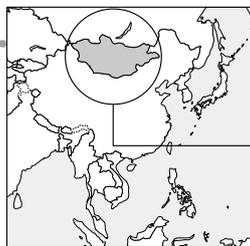


ユニセフ 子ども物語

地球に生きる子どものくらし

Mongolia

モンゴル



地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。



歌声はモンゴルの草原に

草原から都会の生活へ

モンクドラムさんは、14歳の女の子です。家族にはお父さんとお母さん、そして2人の弟がいます。モンクドラムさんたちは、3年前まで草原で遊牧生活をしていました。しかし、雪と寒さで家畜の羊や牛が死んでしまい、生計を立てられなくなったため、遊牧をやめて首都ウランバートルの郊外の丘にゲルを建てて、移り住みました。



モンクドラムさんは、週2回ウランバートル市中心のビルにある青少年開発センターに通っています。センターで3時間ほど過ごすことがとても楽しみです。家にいるとお酒に酔ったお父さんが、口うるさくて、つらくなるからです。以前に、お父さんから暴力を受けたこともあります。

青少年開発センターに通う子どもたち

青少年開発センターでは、モンクドラムさんは他の子どもたちと一緒にグループで作業をします。8畳ほどの部屋で子どもたちは、フェルトで絵をかたどってポストカードを作ったり、ビーズでチングスハンを描いたりします。



このセンターには、家庭内暴力や性的虐待を受けた子どもたちやストリートチルドレンの子どもたちが通っています。子どもたちの多くは、家が貧しいなど家庭になんらかの事情をかかえています。センターでは子どもたちが明るく生きる希望をもち、生活するうえでの技術を身につけることを目的としています。別の部屋では、ボランティアの大学生のお兄さんやお姉さんが、みんなと話し合ったり相談にのったりしてくれます。

いつも通りみんな黙々と作業をしていますが、今日はみんなの顔に笑顔がみられます。それは、明日はみんなが作った作品を3ヶ月に一度、町に売りに行く日だからです。その売り上げでセンターで使用する教材などを買うことができます。子どもたちは、町に出かけることや作った作品がどれだけ売れるかなどを考えると、明日が楽しみでつつい張りきってしまいます。

歌手になる夢

モンクドラムさんにはもうひとつ嬉しいことがあります。それは、お父さんがこのセンターの人のすすめで市場の人と話し合い、荷物運びの仕事ができるようになったことです。センターでは、子どもたちの親の支援もしています。都会に出てきたストレスで乱暴だったお父さんは、仕事をするようになって気持ちが安定し、今では家族に優しく接するようになりました。

モンクドラムさんは、将来、伝統芸能コースの学校に行って、歌手になるのが夢です。センターを訪問した方などが帰るとき、モンクドラムさんは歌のプレゼントをしています。家族と遊牧生活をしていたころを思い出し、草原にまで届くようなすきとおる声で心をこめて歌い、たくさんの拍手をもらっています。



<文・構成：(公財)日本ユニセフ協会>

物語の国 モンゴル

モンゴルは、北緯42度～53度の中央アジア東部に位置し、北はロシア、南は中国と国境を接した内陸国です。面積は、日本の約4倍の157万平方キロメートル、人口は273万人です。(2009年末現在) 日本では横綱白鵬をはじめ、多くの相撲の力士の出身国としても有名です。



©日本ユニセフ協会
広大なモンゴルの大草原

モンゴルの子どもたちの 輝く未来のために

モンゴルの社会的背景

1991年のソ連崩壊の影響を受け、モンゴルは1992年に民主化・市場経済化を図りましたが、経済は壊滅的な状況に追い込まれました。社会保障制度は打ち切られ、失業者も急増しました。また、アルコール中毒者が急増し、子どもへの虐待が社会問題化しました。現在、人口の約4割が首都ウランバートルに



©日本ユニセフ協会
首都ウランバートル近郊のゲル地区

居住しています。伝統的産業である農牧業分野は、GDPの2割(21.2%)を占めており、17万世帯、約35万人が遊牧生活を送っています。地下資源の発見や砂金採掘の活性化などにより、経

済は活気を帯びてきていますが、一方で貧富の差はますます拡大しています。

項目	モンゴル	日本
5歳未満児死亡率(1,000人あたり、2009年) [人]	29	3
改善された水源を利用する人の割合(全国、2008年) [%]	76	100
*モンゴルでは、都市と地方では格差があります。		
適切な衛生施設を利用する人の割合(全国、2008年) [%]	50	100
*モンゴルでは、都市と地方では格差があります。		
平均余命(2009年) [歳]	67	83
国民総所得(2009年) [米ドル]	1,630	37,870

出典：『世界子供白書2011(英語版)』
*当協会ホームページよりダウンロードできます。

モンゴルにおけるユニセフの支援活動

ユニセフは、モンゴルにおいて子どもたちのために多岐に渡る支援活動を実施しています。その活動の一部をご紹介します。

■遊牧民の子どもたちの就学前教育(移動式幼稚園)

モンゴルには、家畜を放牧して生活する遊牧民が全国に点在しています。モンゴルの人口の40%は遠隔地に住んでおり、子どもの人口の56%は遊牧民の子どもたちです。そのため移動式幼稚園の必要性が高く、2010年現在、全国に移動式幼稚園は72あり、3～5歳児の就学前教育を実施しています。場所はゲル(組立式で移動可能な住居)が用いられます。5月～11月中旬にかけて、年に3回、遊牧民が集中して居住している地域に移動して、就学前の子どもたちの指導が行われています。ユニセフは教材作成の支援のほか、親への子育て支援も実施しています。



©日本ユニセフ協会
移動式幼稚園の子どもたち

■都会に出てきた家族への支援活動

物語のモンクドラムさん一家のように、雪害などで家畜を失い、生計を立てられなくなった遊牧民たちが職を求めて首都ウランバートルに移り、次々とゲルを建てゲル地区が形成されています。現在、ウランバートル市の人口約110万人のうち、50%強がゲル地区の住民です。都市スラムのゲル地区の生活環境は劣悪で、住民は厳しい生活を強いられています。ゲル地区に住む人々の生活改善のために、ユニセフが実施している支援活動のひとつに家庭教育評価の活動があります。

[家庭教育評価]

家庭教育評価は、地域住民が評価表を使って、自分たちの生活状況をゲルの形をした表の各評価項目に回答することで振り返るものです。従来27項目あった評価項目に「性病・HIV/AIDSの予防」や「自然環境保護」等の項目が2009年に追加され、現在は31項目となっており、各地域において指導員が定期的に講習会を開催し、住民に対しての指導が行われています。



©日本ユニセフ協会
家庭教育評価表

■子ども保護委員会

ユニセフは、その活動基盤である「子どもの権利条約」に基づき、罪を犯した子どもたち(殺人やレイプなどの重犯罪を除く)を刑務所に送るのではなく、地域の中で子どもを更生させることを目的に運営されている子ども保護委員会の活動を支援しています。子ども保護委員会は、地区長、警察官、検事、ソーシャルワーカー、校長、担任などが参加して共同チームをつくり、罪を犯した子どもに対応しています。更生と犯罪の予防のため、カウンセリングやスポーツ、制作活動などの指導が行われています。



©日本ユニセフ協会
学校の敷地内にある子ども保護委員会が運営する家族と子どものカウンセリングセンター

モンゴル指定募金のご案内

● 移動生活の子どもたちを守る ●

モンゴルの子どもたちへの支援事業は、日本全国の学校からご協力いただく募金によって支えられています。

郵便局(ゆうちょ銀行) 振替口座:00190-5-31000

口座名義:公益財団法人 日本ユニセフ協会

通信欄に「モンゴル」と記入してください。

*送金手数料免除(窓口振込のみ)

モンゴル指定募金資料キット

学習や募金活動資料として、「資料キット」の貸し出しをしています。モンゴルの遊牧民の子どもたちの生活やユニセフの活動をわかりやすく紹介していますので、ぜひご活用ください。

指定募金資料キット

1. 事業の背景・解説(CD-ROM含む)
2. 掲示用写真資料10枚
3. DVD「移動生活の子どもたちを守る」
4. 发育観察記録用紙、幼稚園の教科書
5. 子どもたちの作品

貸し出しをご希望の方は、
学校事業部へお問い合わせください。 TEL:03-5789-2014